

9 自分の国について話す

1 次の会話を聞いてみましょう。



ここでは、どんなインターアクションがいいかを考えてもらうために、同じ場面、同じ人物による会話 A（うまくいかなかった例）と会話 B（うまくいった例）の 2 つの例を提示しています。

(1) 【場面】を理解する

- 学習者に【場面】を読ませて、誰（＝ムティアラ）が、どこ（＝大学の国際交流イベント）で、何をしている状況（＝自分の国についてポスター発表をしている）なのかを学習者に正確に理解させます。
- 必要に応じて、「ムティアラさんは何をしていますか」などの質問をして、学習者の理解を確認するといいでしょう。
- 会話を聞かせる前に、キーワードである「断食」の意味を確認しておく、このあとの活動が円滑に進むでしょう。

(2) 会話 A・会話 B を聞く

- まず、会話 A を聞きます。ここでは、会話のスク립トを読んだだけではわからない話し方（話すスピード、トーンなど）にも注目してもらうため、1 回目は会話のスク립トは見ないように学習者に指示します。ただし、p. 170 の 3 枚の絵は内容の理解を助けるので、必要に応じて見てもいいことにします。
- 次に、会話 B を聞きます。会話 B は会話 A とまったく同じ登場人物と同じ場面です。ただし、会話 B はモデル会話ではなく、あくまでも 1 つの例として考えてください。（会話 B の会話スク립トと英語の翻訳は別冊にあります。）

(3) ペアやグループで気づいた点を話し合う

- 学習者が気づいた会話 A・会話 B の違いを p. 171 の記入欄（「会話 A・会話 B を聞いて、気づいたことを書いてください。」）に書いてもらいます。まず、各自で考えてもらい、その後、ペア／グループで気づいた点を話し合います。
- 日本語で表現するのが難しい場合は、まず、母語で書いてもらってもいいでしょう。
- 気づいた点が出てこない場合は、会話 A のスク립トの気になる部分に線を引き、「なぜ気になるのか」「自分だったらどのようにするか」などについて考えてもらうと、具体的な点が出てきやすくなります。
- ここでは、次のような点に学習者が気づくことが期待されます。

会話 A の問題点	会話 B のいいところ
<ul style="list-style-type: none"> ・ムティアラが一方向的に話して、聴衆からあまり質問がなく、発表が盛り上がっていない。 ・ムティアラの話し方が早口で一方向的。 ・抑揚があまりなく原稿を読んでいる感じ。 ・まったく聴衆に質問したり、聴衆に同意を求めたりしていない。 ・否定的なことを言い切っていて、表現が強すぎる。(「<u>おいしくないです。</u>」「私は甘いものが嫌いですから。」) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ムティアラと聴衆のやり取りが盛んで、発表が盛り上がっている。 ・クイズ形式で、聴衆に質問しながら発表を進めている。(「どのぐらい断食をしますか。」「どんなものを食べたり、飲んだりしますか。」など。) ・聴衆に同意を求めながら発表を進めている。(「1 か月は長いと思いませんか。」) ・表現がやわらかい。 (「実は、食べたり、飲んだりしてはいけないのは、昼間だけなんです。」「でも、私は甘いものが<u>あまり好きじゃない</u>ので、甘くない紅茶を飲みますが。」)

(4) ペアやグループで気づいた点をクラス全体で出し合う

- 各ペア／グループの代表者に、気づいた点を 1 つずつ挙げてもらいます。
- 「会話 B の会話のほうがいい」など、大まかな指摘しかなかった場合、「どうしてそう思いますか」などと質問し、具体的な点を出すよう促します。
- ここでは気づきを促し、PART 2 以降の学習への動機を高めるのがねらいです。上に挙げた(気づきが期待される)点のすべてを学習者から出してもらう必要はありません。また、「会話 A の〇〇のほうがいい」など、教師が期待していない答えが出てくるとありますが、学習者に自由に意見を述べてもらうようにしましょう。
- PART 2 <インターアクションのポイント>が終わったあとに、もう一度会話 A と会話 B を聞くと、インターアクションのポイントが明確になり、効果的です。

2 やってみましょう。

【注意】 本課は他の課と異なり、発表のアウトライン、ポスターなどが準備でき、PART 2 の POINT 1 まで進めてから、「2 やってみましょう。」を行います。

- (1) どんな発表(話し方)がいいか、「1 次の会話を聞いてみましょう。」(会話 A、会話 B の比較)で気づいたポイントを学習者に思い出してもらいます。
- (2) 自分は何に気をつけて発表をしたいか、学習者に言ってもらいます。
* 必要に応じ、気をつけたいポイントをメモしておくよう指示します。
- (3) 学習者をペアか、3～4人のグループに分け、各ペアまたはグループ同時進行で発表をさせます。その際、聴衆役の学習者に、発表者の話し方について気づいた点をメモするよう伝えます。
- (4) 発表が終わったら、発表者に対し聴衆役の学習者からフィードバックをしてもらいます。

(5)「2) どんなことに気がつけましたか。どんなところが難しかったですか。」に自分の発表で気がつけたこと、難しかった点を書き出してもらいます。

* 教師が学習者の気づきの度合いを確認できるよう、極力、日本語（または教師がわかる言語）で書いてもらうのが望ましいです。

* 学習者が日本語か教師がわかる言語で書くのが難しい場合は、学習者の母語で書いてもらってもいいと思います。その際、困難点や気がつけた点を理由なども含めて、できるだけ詳しく具体的に書いてもらうように指示します。これは、学習者が発表する際の各自の課題や克服点に気づきやすくするためです。